

自然が薫り 絆が生きる 自立するむら！
みなみやましろ

南山城村第4次総合計画

南山城村第4次総合計画

南山城村第4次総合計画の策定にあたって	第1節 総合計画の役割と意義	2
	第2節 計画の期間	2
第1章 むらづくりの取り組みに向けて	第1節 時代の潮流への対応	3
	第2節 南山城村の特性を活かす	7
	第3節 住民意向の反映	8
第2章 むらづくりの目標	第1節 むらづくりの目標	24
	第2節 将来人口	26
第3章 施策の大綱	第1節 夢と希望が持てる魅力あるむらをめざして	28
	第2節 多彩な人が多彩な文化を創造するむらをめざして	29
	第3節 安心・安全な暮らしを地域で支え合うむらをめざして	30
	第4節 産業が明日を切り拓く元気むらをめざして	31
	第5節 行財政の確立	32
第4章 魅力あるむらづくりプロジェクト	第1節 村で暮らし続けるための「産業再生」プロジェクト	33
	第2節 村で暮らし続けるための「絆づくり」プロジェクト	34
	第3節 村で暮らし続けるための「次世代担い手育成」プロジェクト	35
	第4節 村で暮らし続けるための「南山城村保全」プロジェクト	36
資料編	むらづくりアンケート調査結果	38

南山城村第4次総合計画の策定にあたって

第1節

総合計画の役割と意義

南山城村では、平成14年度に「自然が薫り、人が輝く 元気むら！みなみやましろ」をテーマに掲げた第3次総合計画を策定し、今日まで様々な分野で施策を展開してきました。

しかし、その後の社会経済情勢はこれまで以上に大きく変貌し、少子高齢化に伴う人口減少社会や実質経済成長率が1%前後の低経済社会へと突入しており、南山城村をはじめとした地方自治体は、これらの動きに対応するため、新たな戦略や施策の見直しが求められています。

特に、若い世代が高齢者を支える現在の社会保障制度のあり方や、これから迎えるであろう超高齢社会への対応は、産業の国際間競争の激化や地球温暖化などの対策とともに国の果たすべき役割ですが、現状では安定した財政運営下での施策展開が期待できず、先行き不透明感が強いと言わざるを得ません。

従って、これからの時代は国や京都府の支援を過度に期待することなく、村民の皆さんとともに村が自立することを目指した魅力あるむらづくりが重要となってきます。

「南山城村第4次総合計画」は現行計画を踏まえつつ、今後予想される多様な局面に対応した新しい進路を示す計画として策定します。

第2節

計画の期間

南山城村第4次総合計画は、平成33年（2021年）を目標とする概ね10力年の計画です。

この計画は、むらづくりの基本的な方向について示したもので、村民の皆さんとともに進めていく行政運営の基本的な方針となるものです。

第1章 むらづくりの取り組みに向けて

第1節

時代の潮流への対応

近年、我が国は少子高齢化、地域や人と人との絆の弱体化などが大きな社会問題となっています。

これに加えて経済成長率の低迷や環境問題などが顕在化していますが、これらのことは我が国だけの問題ではなく、地球レベルで世界が変容していることによるものでもあり、南山城村という一地方自治体だけで対応できる問題ではありません。

従って、時代の潮流を正しく認識し、国・京都府・近隣自治体との連携のもとに、南山城村という地域特性を踏まえた施策を進め、夢と希望の持てるむらづくりを進めていかなければなりません。

1 少子高齢化と人口減少

我が国の人口は平成23年10月現在1億2,805万7千人で、そのうち65歳以上人口は2,924万6千人と高齢化率は23.0%（平成22年国勢調査、確定人口）となっています。

国立社会保障・人口問題研究所の将来推計では、21世紀の半ばの2055年には、人口8,993万人、老年人口は3,646万人（高齢化率40.5%）になると推計しています。

また、少子化問題については、子どもの数が減少するだけでなく、核家族化や女性の社会進出など子供の育つ環境が大きく変化してきており、未来を担う子供が健全に成長できる環境づくりが求められています。

これらの少子高齢化の問題については、単に行政の施策だけでなく各世代の人々が協力し地域社会全体で支え合う仕組みを構築していくことが必要となってきました。

2 国際化・高度情報化と交流・連携

20世紀の後半から交通網の発達などによって世界は急速に身近なものとなりました。

海外渡航は容易となり、海外からも多くの来訪者を迎え、世界各地で生産さ

れた食料品や工業製品が我々の身の回りにも溢れ、インターネットなどにより誰もが即時に世界中の情報に接することができるようになっていきます。

このような国際化・高度情報化の流れは今後も加速することが予測されており、この時代の潮流に取り残されないようにしなければなりません。

3 安心・安全の再構築

我が国は今、社会の閉塞感と将来への不安が高まっており、多くの国民は安心して安全に暮らせる社会となることを強く求めています。

このためには、

- ① 安心して子供を産み育てられる社会
- ② 生涯を通じて一人ひとりの個性と能力を伸ばす教育機会が確保される社会
- ③ やりがいのある仕事への就業機会が確保される社会
- ④ 健康で突然の病気や事故などに困窮することのない社会
- ⑤ 安心して年齢を重ね長寿を謳歌できる社会
- ⑥ 犯罪や事故の危険性が少ない社会
- ⑦ 安心して暮らせる災害に強い社会

を再構築しなければなりません。

4 農林業・農山村問題

日本の農業は、農産物の自由化によって海外からの輸入が増大し厳しい価格競争を余儀なくされており、さらに、農産物生産量の低迷、生産意欲の減退などにより農家数の減少、農業就業者の高齢化、後継者不足が問題となっています。

また近年ではシカ・イノシシなど大型獣による食害被害も拡大、農業生産の大きな足かせとなるなど、生産意欲の低下など様々な問題が顕著化しています。

これらは、特に中山間地域と呼ばれる山間部の農村において大変深刻な問題となっています。

農林業・農山村は、新鮮な食料品を提供するとともに、農地・里山や森林を守り育てることにより国土を災害から守り、併せて、良質の水を確保し、緑の保全・育成を図り、豊かな田園風景や森林レクリエーションの場を提供するなど大変重要な役割を果たしています。

このような農林業・農山村なくして都市部の人々の暮らしが成り立たないこ

とは自明の理であり、社会全体で農林業・農山村を守り育てることが喫緊の課題となっています。

5 ふるさと定住と新たなコミュニティづくり

農山村地域では農業問題が深刻化していることに加え、企業の立地が少なく雇用の機会も殆どないことから、都市部への人口流出が続き、少子高齢化が進み地域を支えてきた人の絆や助け合いの心も薄れつつあります。

また、豊かな自然に囲まれた暮らしへのニーズはありますが、生活の利便性の面などから田舎暮らしをしたいという動きが顕在化するまでには至っていません。

このようなことから、行政、住民、NPO、地域団体などの協働を拡充するとともに、郷土愛を育む教育、地域の伝統文化の保存・継承や地域への愛着心の涵養などを通じて新たなコミュニティを構築していく必要があります。

6 人権の尊重

人間としての尊厳を尊重し人権が守られることは当然のことではありますが、同和問題、女性、子ども、高齢者、障害のある人、外国人等に対する様々な人権問題が依然として存在しており、加えて、インターネットの普及など時代の変化に伴って新たな人権侵害が増加してきています。

人権の擁護は、誰もが豊かでいきいきとした暮らしを送るうえで大変重要なことであり、これまでの取り組みをより一層推進する必要があります。

7 男女共同参画社会

女性の社会進出を拡大し、男性と女性が共同して社会活動を担うとともに女性の力を積極的に活用する時代になりつつありますが、日本は、他の先進国と比べて政治家や企業の幹部・正社員に占める女性の割合が低い水準に留まっています。

これは、育児や介護を担うことの多い女性が未だに働きにくい環境にあることを示しています。

女性の社会参画を促進するためには、男女が対等に役割を分担して共同していくとともに、それを支援していく体制の整備をしていかなければなりません。

8 行政改革・地方分権

地方分権は、効率的・合理的な行財政運営とそれぞれの地方・地域の特色を活かした地方自治の確立を目指し、これまで国が管理し行ってきた事務や業務を各自治体に移管することによって、それぞれの地域の独自性を持った施策推進を可能にするものであり、今後も加速度的に進められていくものと思われますが、これを受けることとなる地方自治体は、その責任や事務量も増大するため、一層の効率的・合理的な行財政運営が欠かせません。

隣接する各自治体間の広域的連携をさらに強化することなどにより、地域特性を活かした地方自治の確立を図っていかねばなりません。

9 ボランティア・NPO・住民との協働

地域社会におけるボランティア活動・NPO活動は、参加者の自発的な活動に支えられています。そのため、活動の継続性があり、また、活動を通じてサービスを受ける側との相互交流が形成されることにより、新しい相互支援・連携という社会関係が生まれます。

これからも、行政・住民・NPO・地域団体・企業等が対等な立場で結びつき、連携・協働した取り組みを進めて地域づくりに活かしていくことが求められています。

10 環境問題

地球規模での環境変化をもたらす温室効果ガスの排出量は、地球全体で増え続けており、経済発展とともに増加した廃棄物の量は減少傾向にあるものの依然として高止まりの状態にあります。

また、東日本大震災での原子力事故は、広い範囲に大きな被害をもたらすなど、これまでの安全神話が崩壊することとなりました。

そして今、エネルギーの大量消費による大量生産、大量消費、大量廃棄型のライフスタイルからの転換が求められています。

これからは、持続可能なエネルギー開発や循環型社会の形成をめざして地球環境問題に対応するとともに、自然環境の保全や自然との共生を図りながら、社会経済活動全体に渡って一人ひとりの生活のあり方や産業活動のあり方などについて見直していくことが求められています。

第2節

南山城村の特性を活かす

1 府県境に位置する村

本村は、東に三重県伊賀市、北東に滋賀県甲賀市、南に奈良市に隣接する府県境の村です。京都府の東南の「はずれ」にありますが、違う見方をすれば、京都府・三重県・滋賀県・奈良県の4府県をつなぐ重要な場所でもあり、4府県境が隣接し、それぞれの文化が融合した新たな文化価値を生み出す地域であるとも言えます。

これまでも、隣接する市町との交流や連携を図ってきましたが、これからも、その絆をより一層強固なものにするとともに、府県の枠組みを超えた交流や連携をも図ることが新しいむらづくりには欠かせないものと言えます。

2 山村の豊かな水と緑、冷涼な気候

平地に乏しく、山地・丘陵が大半を占めており、大都市からは離れていて生活をするには不便な山村ではありますが、一方で、水と緑、冷涼な気候という自然環境が豊かにあることで、本村の特産である「茶」はこの様な環境を活かして行われているものです。

また、「田舎暮らし」を求める傾向が強まってきている都市住民からは、本村はその受け皿として注目を浴びています。

山村が持つ豊かな自然環境を最大限に活用していくことが、これからのむらづくりの基本になると言えます。

3 歴史・伝統文化を見直し活かす

南山城村は、奈良・平城京に都がおかれた時代には都との関わりが深く、既に関かれた地域であったと言われており、南北朝時代には南朝に味方した人々が移り住み、江戸時代には柳生藩の所領となり伊賀街道の宿場町として栄えてきました。

このような歴史と歴史の時間の中で育まれた文化や民俗は村の大きな遺産であり住む者の誇りでもあります。

このように貴重な歴史や伝統文化を守り育てていくことが必要であり、併せて、これらのことを情報発信することにより貴重な観光産業として捉えて発展させていくことが望まれます。

第3節

住民意向の反映

第4次総合計画の策定にあたっては「むらづくりアンケート」と題して、住民意向調査を実施しており、住民の意向を出来る限り反映することに努めます。

調査結果の一部ではありますが、村の暮らしやすさ、今後の整備課題などについては次のとおりです。

■南山城村の住みやすさの分析について

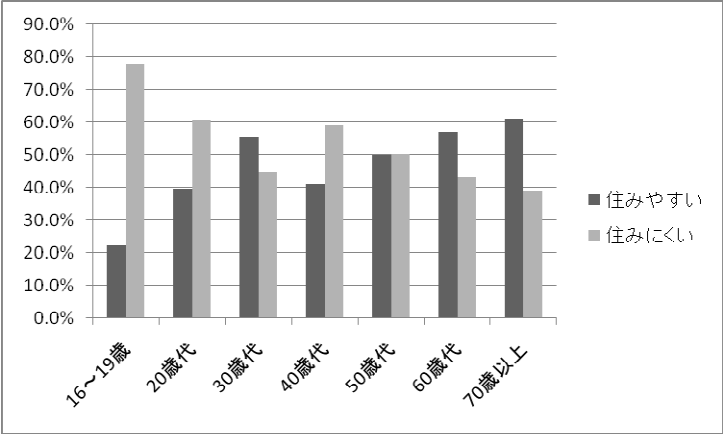
南山城村は住みやすい村かどうかを聞いた事項では、住みやすいと答えた人が住みにくいと答えた人を若干上回りました。また、これを年齢階層別に分析すると、年齢が低いほど住みにくいと感じており、年齢が高くなるほど住みやすいと感じていることが分かりました。

住みやすいと感じている人は、自然が豊かでぬくもりやふれあいがあって住み良いとする意見が多く、住みにくいと感じている人は田園・田舎という住環境の不便さを住みにくい理由として挙げています。

■住みやすい・住みにくいという人の特徴について

年齢別分析				
	住みやすい	どちらかという住みやすい	どちらかという住みにくい	住みにくい
16～19 歳	7.4%	14.8%	44.4%	33.3%
20 歳代	13.2%	26.4%	39.6%	20.8%
30 歳代	25.4%	30.2%	30.2%	14.3%
40 歳代	11.1%	30.0%	38.9%	20.0%
50 歳代	13.3%	36.5%	37.6%	12.7%
60 歳代	12.0%	44.9%	35.6%	7.6%
70 歳以上	19.4%	41.7%	27.9%	11.0%
全体	15.3%	37.9%	34.1%	12.8%

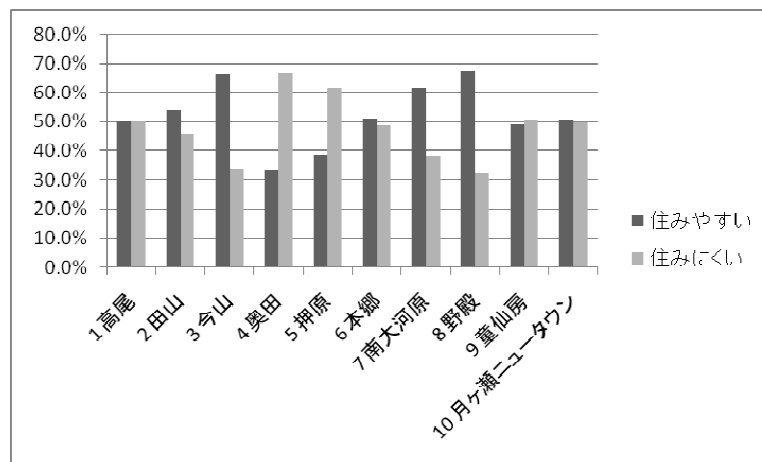
※以下では、「住みやすい」と「どちらかという住みやすい」の合計を「住みやすい」、「どちらかという住みにくい」と「住みにくい」の合計を「住みにくい」としている



★年齢が低いほど住みにくいと感じており、年齢が高いほど住みやすいと感じている。

地区別分析

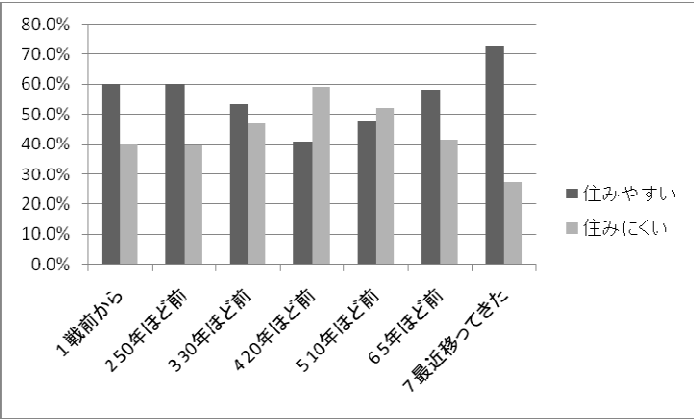
	住みやすい	どちらかという住 みやすい	どちらかという住 みにくい	住みにくい
1.高尾	14.6%	35.4%	30.5%	19.5%
2.田山	14.7%	39.3%	35.1%	10.9%
3.今山	23.9%	42.3%	25.4%	8.5%
4.奥田	0.0%	33.3%	0.0%	66.7%
5.押原	15.4%	23.1%	42.3%	19.2%
6.本郷	19.1%	32.2%	31.3%	17.4%
7.南大河原	25.5%	36.4%	29.1%	9.1%
8.野殿	19.4%	48.4%	25.8%	6.5%
9.童仙房	18.2%	30.9%	40.0%	10.9%
10.月ヶ瀬NT	9.5%	40.9%	39.0%	10.6%
全体	15.3%	37.9%	34.1%	12.8%



★今山、野殿、南大河原では住みやすいと感じる人が多い。
★奥田、押原では住みにくいと感じる人が多い。

在住年数別分析

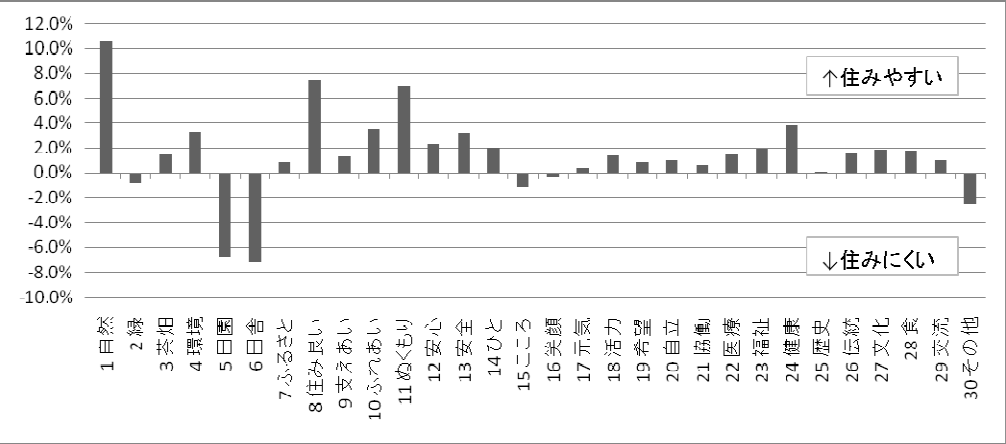
	住みやすい	どちらかという住みやすい	どちらかという住みにくい	住みにくい
1. 戦前から	21.3%	38.7%	29.3%	10.7%
2. 50 年ほど前	14.1%	46.1%	29.1%	10.7%
3. 30 年ほど前	15.4%	37.9%	37.9%	8.9%
4. 20 年ほど前	8.6%	32.4%	41.0%	18.1%
5. 10 年ほど前	11.6%	36.2%	36.2%	15.9%
6. 5 年ほど前	20.8%	37.5%	33.3%	8.3%
7. 最近移ってきた	36.4%	36.4%	22.7%	4.5%
全体	15.3%	37.9%	34.1%	12.8%



★在住年数が 30 年以上の人と 5 年以内の人は、住みやすいと感じる人が多い。
★在住年数が 10～20 年の人は、住みにくと感じる人が多い。

南山城村のイメージとなる言葉（キーワード）はどれですか？

※住みやすいと感じる人と住みにくと感じる人の差



★住みやすいと感じる人の方がより多く選んでいるのは、「自然」「住み良い」「ぬくもり」など。
★住みにくと感じる人がより多く選んでいるのは、「田園」「田舎」など。

■南山城村の将来像について

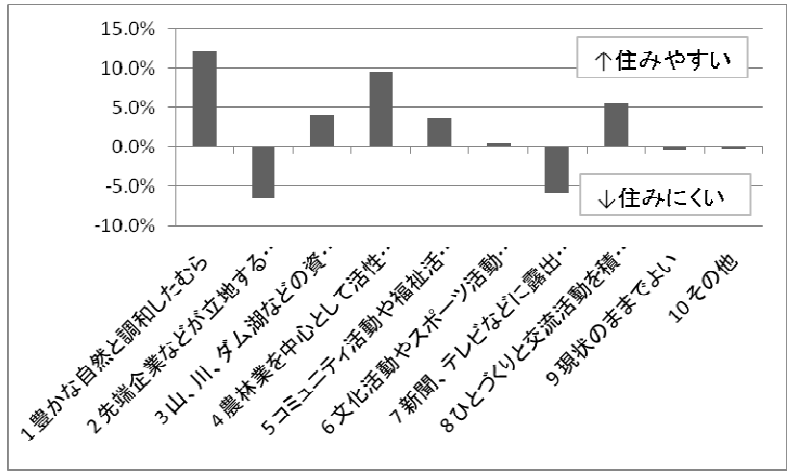
南山城村の将来はどのような姿が望ましいかを聞きました。

「豊かな自然と調和したむら」が72.2%とトップで、次に「山、川、ダム湖などの資源を活かした観光レクリエーションのむら」が44.2%、「農林業を中心として活性化したむら」が28.8%となっています。

これに続くのが「コミュニティ活動や福祉活動の活発なむら」、「ひとづくりと交流活動を積極的に進めるむら」であり、これは、村の良さや伝統を守りながら地域住民がひとつになってむらづくりを進めていくことが大切であるとの声だと思われます。

あなたは南山城村の将来はどのような姿がよいとお考えですか？

1. 豊かな自然と調和したむら	72.2%
2. 先端企業などが立地するむら	15.0%
3. 山、川、ダム湖などの資源を活かした観光レクリエーションのむら	44.2%
4. 農林業を中心として活性化したむら	28.8%
5. コミュニティ活動や福祉活動の活発なむら	27.5%
6. 文化活動やスポーツ活動の活発なむら	13.1%
7. 新聞、テレビなどに露出し、大勢の来訪者が訪れる観光のむら	12.1%
8. ひとづくりと交流活動を積極的に進めるむら	26.6%
9. 現状のままでよい	7.7%
10. その他	1.5%



★住みやすいと感じる人は、「豊かな自然と調和したむら」「農林業を中心として活性化したむら」などを将来像として描いている。
★住みにくいと感じる人は、「先端企業などが立地するむら」「新聞、テレビなどに露出し、大勢の来訪者が訪れる観光のむら」を将来像として描いている。
★住みやすいと感じる人は農村志向、住みにくいと感じる人は都市志向

■医療・福祉の充実、生活基盤などの整備について

むらづくりアンケートで今後のむらづくりを進めていくにあたって、住民の皆さんが何を求めておられるのかについて、住民サービスなど、これまでの施策について、「満足していますか？」また、「今後推進していく施策としてどのくらい重要だとお考えですか？」をそれぞれ項目毎に「満足度」と「重要度」として比較、重要度から満足度を引いたものの差が大きいほど、重要かつ満足度の低い施策であるため、取り組む必要性の高いことがわかります。

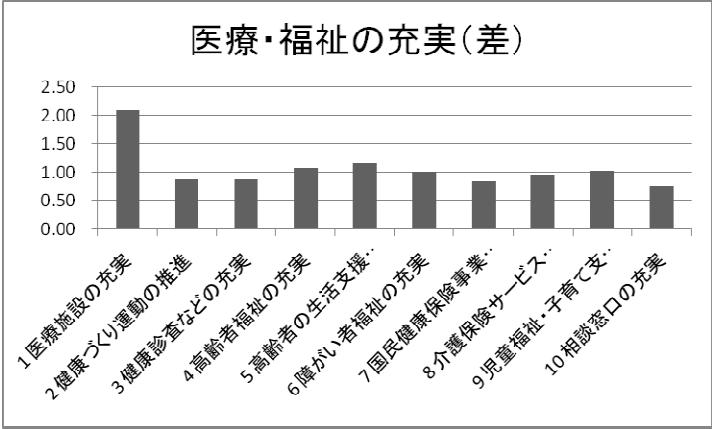
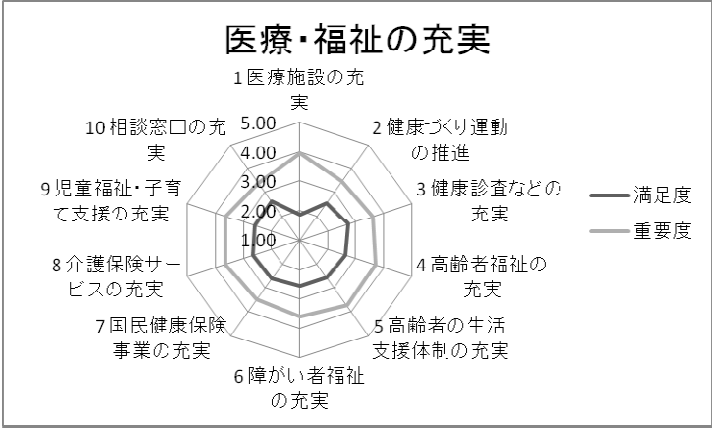
特に差が大きい項目は「医療施設の充実」と「公共交通網の整備」となっており、この2つが地域において最も解決を必要とする問題だと言えます。

また、産業振興については、お茶を始めとした農業振興を中心にして、商工業や観光などの振興を期待する声も多くありました。

医療・福祉の充実

医療・福祉の充実	満足度	重要度	差
1. 医療施設の充実	1.86	3.95	2.09
2. 健康づくり運動の推進	2.57	3.45	0.88
3. 健康診査などの充実	2.73	3.61	0.88
4. 高齢者福祉の充実	2.62	3.71	1.08
5. 高齢者の生活支援体制の充実	2.57	3.73	1.17
6. 障がい者福祉の充実	2.58	3.60	1.01
7. 国民健康保険事業の充実	2.63	3.49	0.85
8. 介護保険サービスの充実	2.68	3.65	0.97
9. 児童福祉・子育て支援の充実	2.61	3.65	1.03
10. 相談窓口の充実	2.63	3.40	0.76

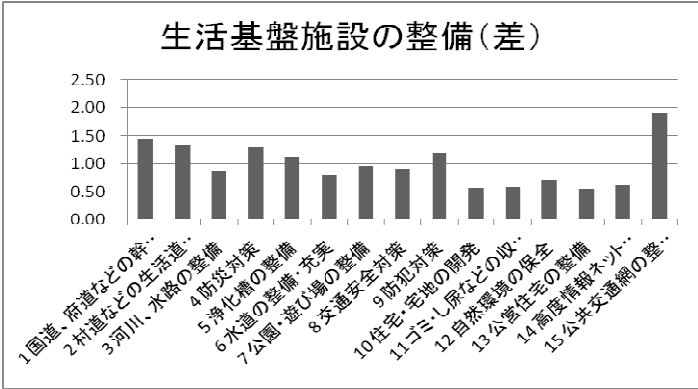
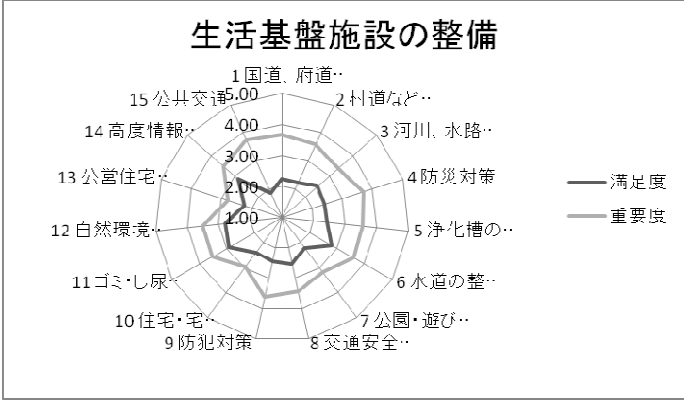
★満足度と重要度は全ての回答を平均したもの。



生活基盤施設の整備

生活基盤施設の整備	満足度	重要度	差
1. 国道、府道などの幹線道路の整備	2.25	3.69	1.44
2. 村道などの生活道路の整備	2.24	3.58	1.34
3. 河川、水路の整備	2.51	3.36	0.86
4. 防災対策	2.40	3.69	1.29
5. 浄化槽の整備	2.42	3.54	1.12
6. 水道の整備・充実	2.82	3.60	0.78
7. 公園・遊び場の整備	2.21	3.17	0.96
8. 交通安全対策	2.53	3.44	0.91
9. 防犯対策	2.45	3.63	1.18
10. 住宅・宅地の開発	2.38	2.95	0.56
11. ゴミ・し尿などの収集・処理	2.93	3.52	0.58
12. 自然環境の保全	2.79	3.51	0.71
13. 公営住宅の整備	2.25	2.80	0.55
14. 高度情報ネットワークの整備・利活用	2.87	3.48	0.61
15. 公共交通網の整備・充実（バス・鉄道等）	1.85	3.76	1.90

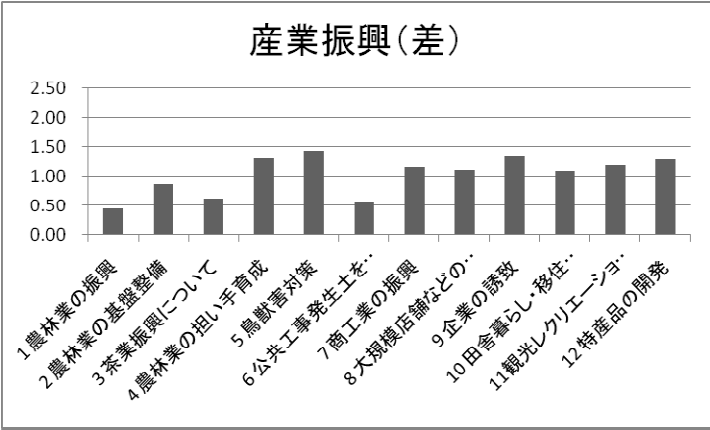
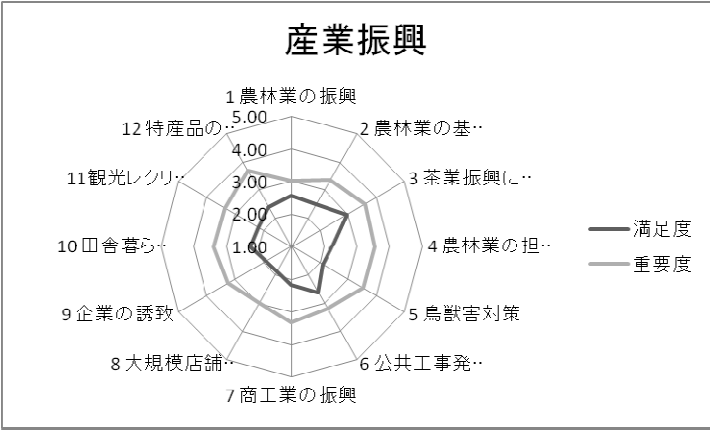
★満足度と重要度は全ての回答を平均したもの。



産業振興

産業振興	満足度	重要度	差
1. 農林業の振興	2.57	3.01	0.45
2. 農林業の基盤整備	2.51	3.37	0.86
3. 茶業振興について	2.96	3.59	0.63
4. 農林業の担い手育成	2.25	3.55	1.30
5. 鳥獣害対策	2.11	3.54	1.43
6. 公共工事発生土を活用した地域活性事業の実施	2.61	3.18	0.58
7. 商工業の振興	2.17	3.33	1.16
8. 大規模店舗などの誘致	1.88	3.00	1.12
9. 企業の誘致	1.91	3.25	1.34
10. 田舎暮らし・移住定住者の推進事業	2.29	3.39	1.10
11. 観光レクリエーション産業の振興	2.17	3.36	1.19
12. 特産品の開発	2.41	3.70	1.29

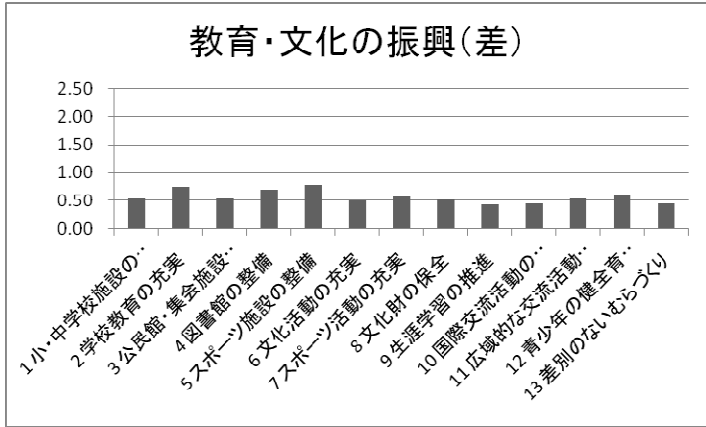
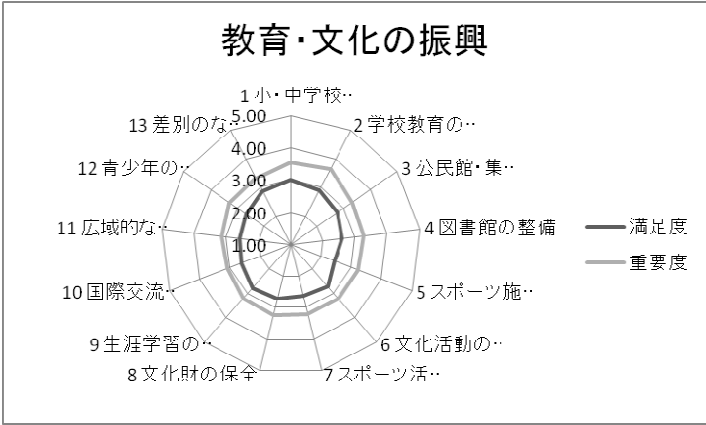
★満足度と重要度は全ての回答を平均したもの。



教育・文化の振興

教育・文化の振興	満足度	重要度	差
1. 小・中学校施設の整備	3.01	3.56	0.55
2. 学校教育の充実	2.89	3.65	0.75
3. 公民館・集会施設の整備	2.76	3.31	0.55
4. 図書館の整備	2.59	3.29	0.70
5. スポーツ施設の整備	2.44	3.23	0.79
6. 文化活動の充実	2.72	3.21	0.49
7. スポーツ活動の充実	2.62	3.21	0.58
8. 文化財の保全	2.72	3.25	0.53
9. 生涯学習の推進	2.77	3.20	0.43
10. 国際交流活動の推進	2.62	3.08	0.45
11. 広域的な交流活動の推進	2.60	3.16	0.56
12. 青少年の健全育成活動の推進	2.67	3.29	0.61
13. 差別のないむらづくり	2.87	3.32	0.45

★満足度と重要度は全ての回答を平均したもの。



■年代別の分析

重要度と満足度の差、各年代の上位5項目に網掛け

生活基盤施設の整備	16～19 歳	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳 以上
1.国道、府道などの幹線道路の整備	0.78	1.25	1.19	1.66	1.83	1.63	1.07
2.村道などの生活道路の整備	0.86	1.47	1.29	1.47	1.85	1.27	1.02
3.河川、水路の整備	0.47	0.83	0.62	1.11	0.96	0.94	0.70
4.防災対策	1.54	1.12	1.52	1.50	1.59	1.42	0.82
5.浄化槽の整備	0.64	0.79	0.82	1.29	1.48	1.23	0.88
6.水道の整備・充実	0.52	0.58	0.53	1.18	1.07	0.80	0.81
7.公園・遊び場の整備	1.20	1.42	1.14	1.14	1.08	0.94	0.66
8.交通安全対策	1.30	0.84	0.89	1.14	1.03	0.91	0.72
9.防犯対策	1.76	1.38	1.62	1.26	1.50	1.09	0.80
10.住宅・宅地の開発	0.77	0.55	0.60	0.59	0.61	0.63	0.41
11.ゴミ・し尿などの収集・処理	0.52	0.94	0.70	0.77	0.73	0.53	0.39
12.自然環境の保全	0.68	0.74	0.90	0.57	0.74	0.85	0.56
13.公営住宅の整備	0.58	0.61	0.67	0.48	0.57	0.55	0.50
14.高度情報ネットワークの整備・利活用	0.88	1.00	0.99	0.84	0.71	0.43	0.40
15.公共交通網の整備・充実（バス・鉄道等）	2.94	2.25	2.22	2.39	2.24	1.84	1.31
産業振興	16～19 歳	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳 以上
1.農林業の振興	0.13	0.70	0.95	0.63	0.97	1.05	0.58
2.農林業の基盤整備	0.21	0.78	1.08	0.85	1.02	1.04	0.59
3.茶業振興について	0.32	0.73	1.00	0.64	0.65	0.67	0.48
4.農林業の担い手育成	0.98	1.23	1.47	1.12	1.49	1.41	1.08
5.鳥獣害対策	0.61	0.82	1.57	1.06	1.75	1.64	1.31
6.公共工事発生土を活用した地域活性化事業の実施	0.34	0.33	0.74	0.64	0.69	0.61	0.50
7.商工業の振興	0.85	0.95	1.24	1.28	1.32	1.36	0.83
8.大規模店舗などの誘致	1.39	0.85	1.22	1.27	1.12	1.23	0.93
9.企業の誘致	1.04	1.30	1.56	1.39	1.35	1.52	1.10
10.田舎暮らし・移住定住者の推進事業	0.68	1.05	1.43	1.22	1.15	1.29	0.77
11.観光レクリエーション産業の振興	0.89	1.22	1.09	1.14	1.37	1.35	0.93
12.特産品の開発	0.95	1.31	1.48	1.20	1.44	1.56	0.86
医療・福祉の充実	16～19 歳	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳 以上
1.医療施設の充実	2.05	2.10	2.64	2.37	2.47	2.26	1.36
2.健康づくり運動の推進	0.81	0.86	1.20	0.98	0.98	0.95	0.63
3.健康診査などの充実	1.08	1.12	1.07	1.17	1.12	0.83	0.49
4.高齢者福祉の充実	1.29	1.06	1.56	1.07	1.19	1.14	0.79
5.高齢者の生活支援体制の充実	1.25	1.20	1.53	1.11	1.33	1.19	0.88
6.障がい者福祉の充実	1.24	1.02	1.46	1.14	1.14	1.02	0.70
7.国民健康保険事業の充実	0.73	0.68	1.08	0.93	0.91	0.92	0.66
8.介護保険サービスの充実	1.07	0.92	1.25	1.12	1.07	0.97	0.72
9.児童福祉・子育て支援の充実	0.86	1.32	1.57	1.35	1.05	1.05	0.65
10.相談窓口の充実	0.64	0.75	1.06	0.96	0.82	0.82	0.52

教育・文化の振興	16～19 歳	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳 以上
1.小・中学校施設の整備	0.96	0.59	0.78	0.69	0.65	0.50	0.35
2.学校教育の充実	1.20	0.76	1.07	0.96	0.79	0.73	0.51
3.公民館・集会施設の整備	0.72	0.60	0.59	0.50	0.59	0.43	0.62
4.図書館の整備	1.06	0.96	0.77	0.73	0.75	0.66	0.54
5.スポーツ施設の整備	0.97	0.96	0.69	0.62	0.88	0.86	0.63
6.文化活動の充実	0.63	0.48	0.47	0.37	0.54	0.52	0.45
7.スポーツ活動の充実	0.72	0.74	0.54	0.54	0.72	0.53	0.46
8.文化財の保全	0.72	0.83	0.62	0.44	0.51	0.46	0.51
9.生涯学習の推進	0.52	0.57	0.49	0.35	0.39	0.40	0.46
10.国際交流活動の推進	0.47	0.65	0.37	0.43	0.41	0.45	0.48
11.広域的な交流活動の推進	0.73	0.69	0.53	0.59	0.66	0.48	0.47
12.青少年の健全育成活動の推進	0.76	0.62	0.54	0.62	0.63	0.61	0.60
13.差別のないむらづくり	0.52	0.62	0.69	0.51	0.42	0.34	0.42

★医療施設と公共交通についてはどの年代も必要性を感じている。

★道路整備や鳥獣害対策については比較的高い年代、防犯対策については比較的若い年代が必要性を感じている。

■在住年数別の分析

重要度と満足度の差、各在住年数の上位5項目に網掛け

生活基盤施設の整備	戦前から	50年ほど前	30年ほど前	20年ほど前	10年ほど前	5年ほど前	最近移ってきた
1.国道、府道などの幹線道路の整備	1.36	1.63	1.35	1.45	1.36	1.43	2.00
2.村道などの生活道路の整備	1.26	1.78	1.31	1.15	1.17	1.31	1.29
3.河川、水路の整備	0.89	1.21	0.71	0.77	0.77	0.47	0.74
4.防災対策	1.08	1.65	1.41	1.23	0.95	0.78	1.17
5.浄化槽の整備	0.99	1.58	1.02	1.01	0.86	0.73	1.33
6.水道の整備・充実	0.58	0.95	0.74	0.91	1.22	1.03	0.50
7.公園・遊び場の整備	0.76	0.87	1.11	1.08	1.04	1.11	0.38
8.交通安全対策	0.88	1.08	0.74	0.98	0.91	1.28	0.50
9.防犯対策	0.89	1.43	1.28	1.10	1.26	1.02	0.96
10.住宅・宅地の開発	0.47	0.56	0.32	0.85	0.77	0.47	0.54
11.ゴミ・し尿などの収集・処理	0.49	0.75	0.54	0.64	0.34	0.44	0.83
12.自然環境の保全	0.63	0.78	0.74	0.78	0.59	0.39	0.62
13.公営住宅の整備	0.46	0.46	0.47	0.72	0.63	1.47	0.32
14.高度情報ネットワークの整備・利活用	0.39	0.60	0.46	0.86	0.73	0.61	0.41
15.公共交通網の整備・充実（バス・鉄道等）	1.31	1.83	1.99	2.29	1.99	2.02	2.33
産業振興	戦前から	50年ほど前	30年ほど前	20年ほど前	10年ほど前	5年ほど前	最近移ってきた
1.農林業の振興	0.75	0.98	0.75	0.68	1.10	1.07	1.08
2.農林業の基盤整備	0.79	0.99	0.82	0.71	1.19	1.21	1.20
3.茶業振興について	0.61	0.60	0.63	0.53	0.93	1.20	0.79
4.農林業の担い手育成	1.16	1.40	1.31	1.16	1.46	1.58	1.46
5.鳥獣害対策	1.64	1.83	1.54	0.95	1.19	1.50	1.04
6.公共工事発生土を活用した地域活性化事業の実施	0.53	0.72	0.49	0.45	0.67	0.85	0.96
7.商工業の振興	0.95	1.27	1.09	1.07	1.64	1.60	1.39
8.大規模店舗などの誘致	0.89	1.25	0.95	1.14	1.50	1.25	1.43
9.企業の誘致	1.20	1.41	1.24	1.40	1.59	1.25	1.48
10.田舎暮らし・移住定住者の推進事業	0.73	1.00	0.95	1.24	1.67	1.76	2.08
11.観光レクリエーション産業の振興	0.79	1.16	1.15	1.33	1.35	1.28	1.67
12.特産品の開発	0.86	1.32	1.24	1.36	1.49	1.62	2.00
医療・福祉の充実	戦前から	50年ほど前	30年ほど前	20年ほど前	10年ほど前	5年ほど前	最近移ってきた
1.医療施設の充実	1.61	2.09	2.26	2.22	2.02	2.23	2.57
2.健康づくり運動の推進	0.77	1.02	0.84	0.85	0.76	1.23	1.13
3.健康診査などの充実	0.60	1.06	0.78	1.04	0.80	0.73	0.96
4.高齢者福祉の充実	0.80	1.12	1.13	1.13	1.18	0.93	1.52
5.高齢者の生活支援体制の充実	0.96	1.18	1.24	1.18	1.29	1.13	1.48
6.障がい者福祉の充実	0.76	1.00	1.07	1.07	1.18	1.00	1.17
7.国民健康保険事業の充実	0.71	0.94	0.82	0.83	0.91	0.62	0.91
8.介護保険サービスの充実	0.77	1.03	1.04	0.93	0.89	0.72	1.28
9.児童福祉・子育て支援の充実	0.80	1.04	1.11	1.00	1.23	1.11	1.18
10.相談窓口の充実	0.67	0.89	0.68	0.75	0.92	0.66	0.83

教育・文化の振興	戦前から	50年ほど前	30年ほど前	20年ほど前	10年ほど前	5年ほど前	最近移ってきた
1.小・中学校施設の整備	0.55	0.50	0.48	0.61	0.63	0.88	0.71
2.学校教育の充実	0.67	0.67	0.73	0.84	0.86	1.16	0.84
3.公民館・集会施設の整備	0.75	0.71	0.34	0.55	0.51	0.40	0.47
4.図書館の整備	0.52	0.65	0.60	0.85	0.86	0.92	0.88
5.スポーツ施設の整備	0.60	0.78	0.73	0.94	0.87	1.00	0.79
6.文化活動の充実	0.50	0.50	0.47	0.53	0.49	0.43	0.29
7.スポーツ活動の充実	0.35	0.71	0.48	0.67	0.64	0.82	0.63
8.文化財の保全	0.57	0.49	0.55	0.57	0.53	0.16	0.34
9.生涯学習の推進	0.48	0.35	0.35	0.47	0.64	0.58	0.51
10.国際交流活動の推進	0.45	0.49	0.21	0.53	0.59	1.21	0.69
11.広域的な交流活動の推進	0.51	0.59	0.42	0.60	0.75	0.77	0.77
12.青少年の健全育成活動の推進	0.60	0.65	0.54	0.61	0.72	0.79	0.73
13.差別のないむらづくり	0.47	0.31	0.45	0.48	0.55	1.05	0.52

★医療施設と公共交通については在住年数にかかわらず必要性を感じている。

★鳥獣害対策については在住年数の長い人が必要性を感じている。

★商工業の振興、田舎暮らし・移住定住者の推進事業、特産品の開発については、在住年数の短い人が必要性を感じている。

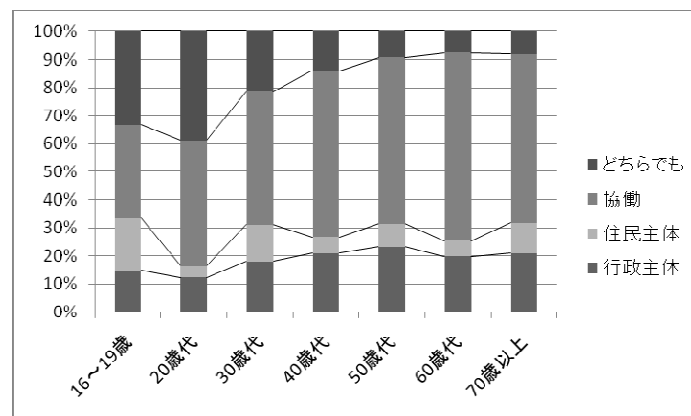
■むらづくりの推進について

むらづくりの住民参加について聞いたところ、「行政と住民が協働で行うべきだ」が59.0%と多数を占めました。

これからのむらづくりは、行政の力だけでできるものではなく、行政、住民、NPO、地域団体、企業等が連携・協働して進めていくことが大切です。

年齢別

	行政主体で行うべきだ	どちらかという行政主体で行うべきだ	どちらかという住民主体で行うべきだ	住民主体で行うべきだ	行政と住民が協働で行うべきだ	どちらでもよい
16～19歳	11.1%	3.7%	3.7%	14.8%	33.3%	33.3%
20歳代	2.0%	10.2%	2.0%	2.0%	44.9%	38.8%
30歳代	6.6%	11.5%	4.9%	8.2%	47.5%	21.3%
40歳代	2.3%	18.6%	2.3%	3.5%	59.3%	14.0%
50歳代	8.1%	15.1%	6.4%	1.7%	59.3%	9.3%
60歳代	5.0%	14.9%	0.5%	5.0%	67.0%	7.7%
70歳以上	6.7%	14.2%	4.5%	6.3%	60.1%	8.2%
全体	6.0%	14.3%	3.5%	5.0%	59.0%	12.2%

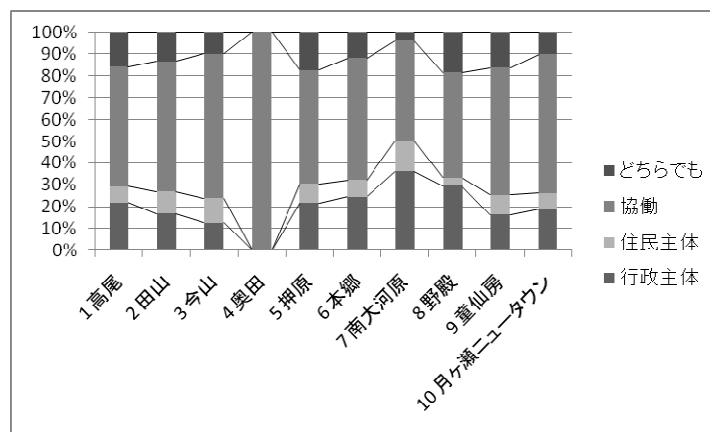


- ★行政主体が住民主体化という点では各年代であまり違いがない
- ★協働で行うべきだという回答は年齢が高いほど多くなる。
- ★どちらでもよいという回答は年齢が高いほど少なくなる。

地区別

	行政主体で行 うべきだ	どちらかとい うと行政主体 で行うべきだ	どちらかとい うと住民主体 で行うべきだ	住民主体で行 うべきだ	行政と住民が 協働で行うべ きだ	どちらでもよ い
1. 高尾	4.9%	17.1%	2.4%	4.9%	54.9%	15.9%
2. 田山	5.0%	11.9%	4.5%	5.5%	59.7%	13.4%
3. 今山	2.8%	9.9%	1.4%	9.9%	66.2%	9.9%
4. 奥田（※）	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
5. 押原	0.0%	21.7%	4.3%	4.3%	52.2%	17.4%
6. 本郷	8.5%	16.1%	4.2%	3.4%	55.9%	11.9%
7. 南大河原	12.0%	24.0%	8.0%	6.0%	46.0%	4.0%
8. 野殿	7.4%	22.2%	3.7%	0.0%	48.1%	18.5%
9. 童仙房	3.6%	12.7%	3.6%	5.5%	58.2%	16.4%
10. 月ヶ瀬NT	6.9%	12.1%	2.8%	4.5%	63.6%	10.1%
全体	6.0%	14.3%	3.5%	5.0%	59.0%	12.2%

※奥田地区は回答数が少ないため参考値



- ★地区によって、若干の意識の違いがある。
- ★その中でも、比較的多くの人が協働の必要性を認めている。

第2章 むらづくりの目標

第1節

むらづくりの目標

近年、我が国においては、少子高齢化の進行、経済成長率の低迷、経済・社会のグローバル化が進む中で、格差の拡大、地域や人と人との絆の弱体化が顕在化するなど社会の仕組みが大きく変わってきており、その時代の流れに対応しきれない様々な課題が山積しています。

特に、これらの事象に対応しきれない現状から、日々の暮らしに加え将来への展望が開けないことへの不安や危機感が溢れています。

このような中であって、南山城村においては、豊かな自然や今日まで築き上げてきた伝統や文化などの貴重な財産を守り育てながら、一段と深刻化する課題に的確に対応し、「豊かな暮らしと潤いのある社会」をめざして、誰もが住んでみたいと思う地域社会を構築していくことが求められていると考えます。

「豊かな暮らしと潤いのある社会」は、安定した経済活動に支えられる活発な地域活動が展開される中で、豊かな自然環境の保全、保健・福祉の充実、生活基盤の整備、教育・文化の振興が図られ、住民一人ひとりが充実した暮らしを送ることができることを基本と考えています。

このようなことを踏まえて、南山城村第4次総合計画の策定のあたっては、南山城村で生活する村民を主役として「自然・歴史との共生・活用」、「交流・連携による活力創出」、「暮らしと文化の創造」を基本的なテーマとして、「村で暮らす」ということを今一度問い直し、行政、住民、NPO、地域団体、企業等がそれぞれの役割を超えて、村があり続けるための方策、村で暮らし続けるための新たな仕組みづくりを展開すべき時期に来ています。

むらづくりビジョン

自然が薫り 絆が生きる 自立するむら！みなみやましろ

自然とのふれあいは、潤いとやすらぎを人々の生活にもたらしてくれます。

歴史と接することは、ふるさとの価値を高め、ふるさとへの誇りにつながります。

長年に渡って築き上げてきた人と人との絆、地域の絆が生き続けている村をこれからも守り大切にしながら、新たな交流・連携の中で生まれる絆をつくり上げていかなければなりません。

人と人とのふれあいは、あたたかさや創造力にあふれる心を育て、躍動感にあふれた村をつくり上げます。

このためには、暮らしの基盤を安定させることが大切であり、支え合える仕組みづくり、住民が安心して安全に暮らすことの出来る地域社会を住民とともに築き上げることが村の自立につながっていくものであると考えます。

時代の流れを正しく認識し、国や府、近隣自治体との連携のもとに夢と希望の持てるむらづくりを推進することこそ、南山城村に求められているものと考えます。

第2節

将来人口

我が国の人口は平成23年10月現在1億2,805万7千人で、そのうち65歳以上人口は2,924万6千人と高齢化率は23.0%（平成22年国勢調査、確定人口）となっています。

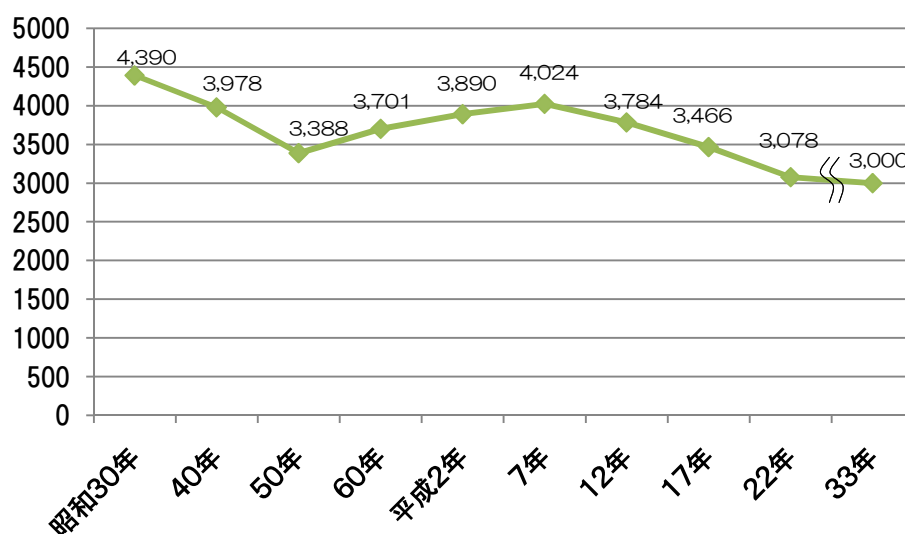
前回調査の平成17年から横ばいで推移していますが、京都府では約1万2千人減少し、人口減少時代に突入しています。

南山城村においては、既にこの人口減少が顕著に現れており、少子高齢化は今後もさらに進むものと考えられます。

平成12年の国勢調査における人口は3,784人でしたが、平成22年では3,078人、10年間で706人、18.7%の減少となり、高齢化率も35.2%に達しこれからもこの傾向は続くものと考えられます。

このような人口減少に歯止めをかけることが村に課せられた大きな課題であり、魅力あるむらづくりを積極的に進めることにより人口流出を防ぎ、人口流入を促進し現状人口の維持に努めることとして、平成33年の目標人口を3,000人と設定します。

将来人口の推移



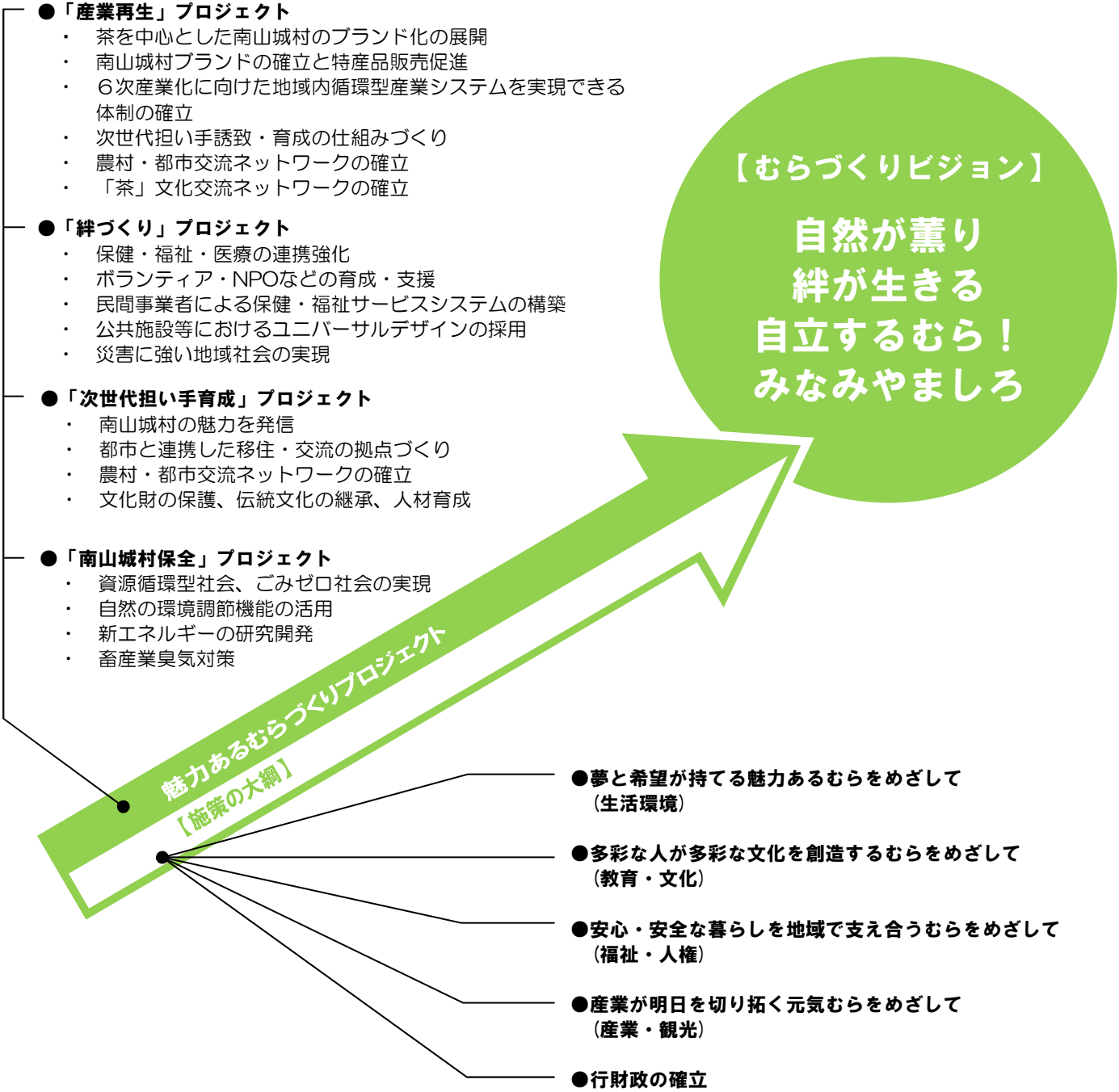
※平成22年までは国勢調査人口、平成33年は推計人口

第3章 施策の大綱

むらづくりは、日々の生活に密着したことから将来に向けた基盤整備などに至るまで、幅広く様々な分野に及びます。

そこで、村の目指す姿（将来像）「むらで暮らし続ける」の実現に向けて、各分野ごとの基本目標として“4つの柱”を設定し、行財政の確立を含めそれぞれの基本方向を示し、基本方向に沿った施策の推進を図ります。

施策の推進にあたっては、魅力あるむらづくりプロジェクトとの連携を重視し、計画的で総合的な施策推進を図ります。



第1節

夢と希望が持てる魅力あるむらをめざして

豊かな自然との調和を図りながら、南山城村独自の潤いのある環境整備を進める一方、村の魅力をより高めて村民満足を得るとともに、その情報を村外にも発信することにより村の活性化を図ります。

また、生活基盤や道路網の整備を進め、集落が分断されがちな村に一体感を持たせるようにしていきます。

さらに近隣市町等との多様な交流・連携を促進し、ふれあいの輪が広がるむらづくりを進めます。

施策の体系

- **水と緑の豊かな環境づくり**
 - ◇ 自然環境の保全・育成
 - ◇ 循環型社会の形成
- **暮らしを支える生活基盤の充実**
 - ◇ 総合的な交通体系の整備
 - ◇ 良質で安定した浄水の提供
 - ◇ 高度情報ネットワークの有効活用
- **快適な生活空間の形成**
 - ◇ 良好な居住環境の形成
 - ◇ 秩序ある土地利用の促進
 - ◇ 犯罪を防ぐ環境づくり

第2節

多彩な人が多彩な文化を創造するむらをめざして

豊かな自然の中で、一人ひとりの個性と生きがいを育て、感性豊かでいつまでも輝き続けるような暮らしが送れるように、学校教育を始めとする生涯学習の振興を図ります。

また、このような生涯学習活動と一体となって地域の文化活動を推進し、個性豊かな文化を創造します。

施策の体系

● 村民一人ひとりが輝きつづける生涯学習の振興

- ◇ 相楽東部広域連合と連携した学校教育の充実
- ◇ ふるさとを愛する心の育成
- ◇ 生涯学習の推進
- ◇ 青少年の健全育成
- ◇ 広域的な交流活動の推進

● 個性豊かな文化の創造

- ◇ 南山城村ならではの文化の育成と創造
- ◇ 文化財の保存と伝統文化の継承発展

第3節

安心・安全な暮らしを地域で支え合うむらをめざして

子どもからお年寄りまで全ての人々が、元気で安心して安全に潤いと安らぎのある暮らしが送れるように、温かい心に包まれた福祉社会の実現を目指します。

そのため、各種の福祉施策の充実、保健・医療の充実に努めるとともに、思いやりと助け合いのあるふれあいに満ちたコミュニティづくりを進めます。

また、福祉やむらづくりなどを自発的に行うボランティア・NPO等を育成・支援を行い、地域住民を含めて協働によるむらづくりを進めます。

さらには、相互に助け合う精神とともに、違いを認めあい「個」を大切にす社会づくりめざして、人権の尊重、男女共同参画社会の実現を推進します。

施策の体系

● めくもりのある支えあいの福祉社会の実現

- ◇ 高齢者福祉の充実
- ◇ 児童福祉の充実と子育て支援
- ◇ 障がい者（児）福祉の充実

● いきいきとした健康な生活をめざして

- ◇ 医療の充実
- ◇ 健康づくりの推進

● ふれあいに満ちたコミュニティの形成

- ◇ 人と人の絆、地域の絆を守り育てる施策推進

● ボランティア等の育成・支援

- ◇ 住民と行政の協働の拡充

● 「個」を大切にする社会の実現

- ◇ 人権の尊重
- ◇ 男女共同参画社会の確立

● 災害に強い地域社会の実現

- ◇ 災害の防止と防災体制の確立

第4節

産業が明日を切り拓く元気むらをめざして

南山城村の自立性を高めるために、地域の個性や資源を活かした産業の活性化を推進していきます。

特にお茶を中心とした農業振興に力点を置いて、環境にも配慮しながらそれぞれの地域の特性に応じた農業、商業、サービス業、工業等を適正に配置します。

同時に魅力ある産業振興により、若者の定住や雇用対策につなげて活力ある元気なむらづくりを目指します。

施策の体系

● 自然と歴史に根付いた農林業の振興

- ◇ 茶業の振興
- ◇ 農業の振興
- ◇ 林業の振興
- ◇ 高付加価値型農林業の推進
- ◇ 獣害対策

● 商工業の振興

- ◇ 商業の振興
- ◇ 工業の振興

● 人と文化が交流する観光ネットワークの確立

- ◇ 観光レクリエーションの整備・充実
- ◇ 観光関連産業の振興

第5節

行財政の確立

住民に信頼され、親しまれる行政を進めるために、住民参加の促進、情報の公開等をさらに進め、住民要望に的確かつ迅速に対応します。

また、引き続き行財政改革が求められている中で、行財政の合理化・効率化を積極的に進めます。

行財政環境は、今後もますます厳しさを増すものと予想され、健全な行財政運営を進めるため、自主財源を確保する施策の展開や適性で計画的な財政支出に努めます。

また、これから進む地方分権に的確に対応するための体制強化や財源確保を近隣市町等との連携強化を図りながら進めていきます。

施策の体系

- 住民参加と情報公開
- 行政運営の合理化・効率化
- 健全な財政運営の推進
- 地方分権に対応する体制
- 広域的な連携に向けて

第4章 魅力あるむらづくりプロジェクト

むらづくりの目標である「自然が薫り、絆が生きる 自立するむら！みなみやましろ」を実現するために、施策分野ごとの体系については「第3章 施策の大綱」で示していますが、特に重要な事業・施策については「魅力あるむらづくりプロジェクト」と位置付け、行政と村民の英知とエネルギーを結集してその実現方策を検討し、目標を達成するものとします。

第1節

むらで暮らし続けるための「産業再生」プロジェクト

南山城村では茶業を中心とした農林業が基幹産業ですが、茶業低迷などによる収入減、後継者不足、耕作放棄地の増加などが顕在化しています。

南山城村で暮らし続けるためには、南山城村の基幹産業である農業を持続可能な農業として展開しなければなりません。

持続可能な農業の展開には、従来の茶を中心とした本物づくりの生産技術を守る一方で、付加価値を高める新たな取り組みや、6次産業化などへの挑戦といった若い世代が就労できる農業振興施策への体制づくりをしていく必要があります。

従来の「つくる」ことに特化し技術を高め生産者だけが考えるという従来の1次産業としての農業から、加工、販売、特産品PRなど地域ぐるみで農業に関わり、地域ブランドとして育てる仕組みづくり、6次産業化に向けた地域内循環型産業システムを実現できる体制づくりを推進します。

- 茶を中心とした南山城村のブランド化の展開
- 南山城村ブランドの確立と特産品販売促進
- 6次産業化に向けた地域内循環型産業システムを実現できる体制の確立
- 次世代担い手誘致・育成の仕組みづくり
- 農村・都市交流ネットワークの確立
- 「茶」文化交流ネットワークの確立
- 獣害対策

第2節

むらで暮らし続けるための「絆づくり」プロジェクト

南山城村においては、平成12年の国勢調査における人口は3,784人でしたが、平成22年では3,078人、10年間で706人、18.7%の減少となり、高齢化率も35.2%に達しこれからもこの傾向は続くものと考えられます。

また、先に実施した住民アンケート調査においても、医療施設の充実と高齢者の生活支援などの高齢者福祉の充実を期待する声が最も多いという結果となっています。

このため、行政の力だけで実施することには限界があるため、行政・住民相互が助け合い支え合って、誰もが健やかでやすらぎと潤いのある暮らしが送れるように保健・福祉の充実に努めるとともに、地域全体で支え合い暮らし続けられる仕組みづくりを推進します。

- 保健・福祉・医療の連携強化
- ボランティア・NPOなどの育成・支援
- 民間事業者による保健・福祉サービスシステムの構築
- 公共施設等におけるユニバーサルデザインの採用
- 総合的な交通体系の整備
- 絆が支える地域づくり

第3節

むらで暮らし続けるための「次世代担い手育成」プロジェクト

南山城村は、大都市からは離れていて生活をするには不便な山村ですが、一方で、水と緑、冷涼な気候という自然環境が豊かにあり、「田舎暮らし」を求める傾向が強まってきている都市住民からすれば、その受け皿として注目を浴びています。

自然とのふれあいは、潤いとやすらぎを人々の生活にもたらしてくれます。歴史と接することは、ふるさとの価値を高め、ふるさとへの誇りにつながります。

長年に渡って築き上げてきた人と人との絆、地域の絆は、あたたかさや創造力にあふれる心を育て、いきいきとして誰もが住んでみたいと思う魅力にあふれた村をつくり上げます。

このため、豊かな自然や今日まで築き上げてきた伝統や文化などの貴重な財産を守り育てながら「豊かな暮らしと潤いのある社会」をめざして、誰もが住んでみたいと思う地域社会を構築していかなければなりません。

また、若い世代が暮らしやすい環境づくりと村の環境に適したワークスタイル等を確立し、次世代の南山城村の担い手が育成できる、定住・移住促進の取り組みを積極的に展開します。

- 南山城村の魅力を発信
- 都市と連携した移住・交流の拠点づくり
- 農村・都市交流ネットワークの確立
- 文化財の保護、伝統文化の継承、人材育成

第4節

むらで暮らし続けるための「南山城村保全」プロジェクト

地球規模での環境変化をもたらす温室効果ガスの排出量は地球全体で増え続けており、廃棄物の量も減少傾向にあるものの依然として高止まりの状態にあり、エネルギーの大量消費による大量生産、大量消費、大量廃棄型のライフスタイルの見直しが必要とされています。

また南山城村では、豊かな自然や今日まで築き上げてきた伝統や文化などの貴重な財産が数多くあり、今もなお生き続けており、これをしっかりと守っていくことが求められています。

「豊かな暮らしと潤いのある社会」をめざして、次に掲げる施策に取り組むことにより、誰もが住んでみたいと思う地域社会を構築していかなければなりません。

特に、畜産業の臭気対策は長年の懸案事項として各般の取り組みが行われてきましたが、現在も解決には至っていません。これを解決に導くことを環境対策における喫緊の課題と位置付けて取り組みを推進します。

- 資源循環型社会、ごみゼロ社会の実現
- 自然の環境調節機能の活用
- 新エネルギーの研究開発
- 畜産業等臭気対策